

地元活性化へ支援模索

青森県出身経営者集め組織化

首都圏在住の青森県出身経営者らでつくる任意団体「Aosuki」(アオスキ)の活動が活性化している。5月に新たに会員規約を作り、組織化を図ったほか、9月には東京都内のホテルで盛大に交流会を開く予定。景気低迷や東日本大震災の影響で経済が停滞する中、首都圏からふるさと青森県を活性化させようとするさまざまな活動を模索している。団体の設立から携わる加藤雄一會長に活動内容や今後の展開などを聞いた。

「われわれに何かできないだろうか」という話が出た。まずは多くの人から意見を聞こうということになった。

Aosuki 會長 加藤 雄一さん



かとう・ゆういち 青森県立八戸北高卒。IT関連会社に勤務後、1991年に独立し、ウェブシステム

略歴

構築会社「アスペア」を設立。現在は同社代表取締役會長を務める。三戸町出身。53歳。

知人の経営者や青森にゆかりのある人に、ふるさとの活性化を目的とした組織の設立を呼び掛けたところ、34人が賛同してくれた。

「どんな活動を展開している。」

主な活動は2カ月に1度の通常例会と半年に1回の拡大交流会。例会は経営者が中心で、青森県の活性化のためにどのような活動や支援ができるのか活発に意見交換している。

例えば、青森県は雇用の確保、企業誘致、観光振興、県産品の販売促進の四つが重要課題と言われており、会のメンバーが店舗を拡大する際は県内に優先的に出店したり、県産品の物流やPR

Aosuki (アオスキ)は、2010年5月に加藤雄一會長の呼び掛けで設立。当時は34人でスタートした。その後、会員を順調に増やし、11年7月末現在で会員は経営者60人、オプザーバー(交流会員)52人の計112人。IT関係や不動産、経営コンサルティング、飲食業など職種も幅広い。

名称の「アオスキ」は「青森大好き」の最初と最後の2文字から取った造語。

メモ

活動の手伝いをしたりと、会員それぞれが自分の得意分野から支援ができると考えている。

交流会は、青森県のファンなど何らかのつながりがあれば出身者でなくても参加できる。経営者だけでなく、飲食業や芸能、ファッションなどさまざまな業界の人が集まることで、新たな発見を見つけることができる。

最近では、会員が県人会や八戸せんべい汁研究所の活動にも参加するなど交流範囲の拡大にも努めている。

「今後の活動展開と目標は。」

組織の主催事業の拡大を目指す。例えば地元から講師を招いて、県内の現状や課題を説明してもらうなど、より具体的な支援につながるイベントを企画したい。

また、ある程度、数値目標を掲げて活動していくことも重要。県産品の販売数を組織の活動によってどれだけ増やすことができるかなど目標を掲げてやっていきたい。

「今後の意気込みは。」

会員をもっと増やして組織を活性化させたい。そして他の県から青森県は元気があると言われるようにしたい。

会員同士が本音で語り合えるのも魅力の一つ。ほかの会員が頑張っている姿を見ると良い刺激になるので、ぜひ参加してほしい。

主催事業の拡大を目指す

時代を



む